

今、何の病気が流行しているか！

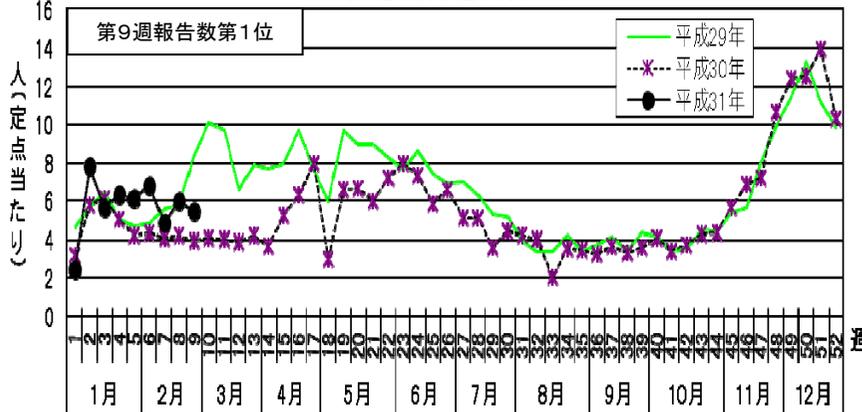
【感染症発生動向調査事業から】

平成31年2月25日（月）～平成31年3月3日（日）〔平成31年第9週〕の感染症発生状況

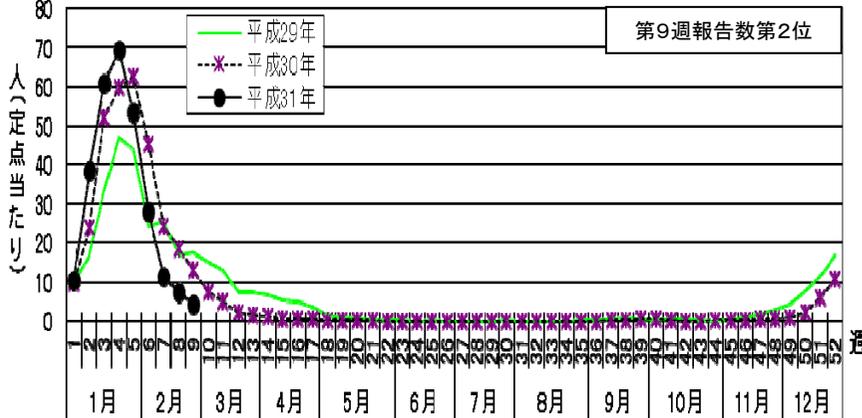
第9週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)インフルエンザ 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.43人と前週（5.95人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は4.25人と前週（7.48人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週（3.68人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



インフルエンザ発生状況(3年間)

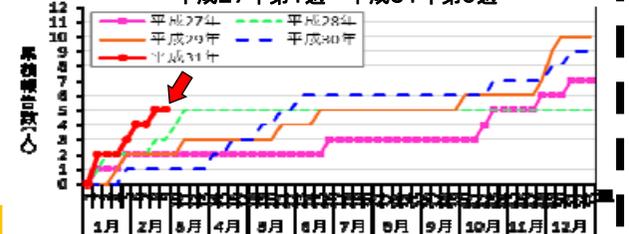


知っていますか？～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

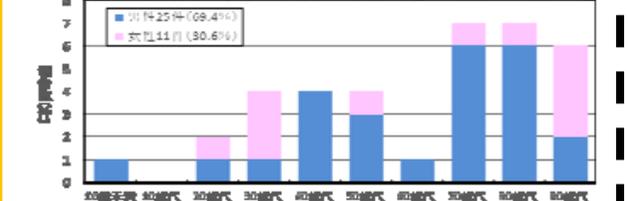
劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的な四肢の痛み・腫れ、発熱、咽頭痛などから始まり、発病後数十時間以内に腫れた部分が壊死（細胞が破壊され組織が死んでしまうこと）を起こしたり、多臓器不全やショック状態から死に至ることもある細菌感染症です。

川崎市においては、年間5～10件程度で推移していますが、平成31年は1月下旬以降報告が相次ぎ、第9週（2月25日～3月3日）までに5件の報告がありました。症状の進行が早く、重症化する可能性もあるため、原因不明の四肢の突然の痛みなどがみられた際は早めの受診を心掛けましょう。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症累積報告数
-平成27年第1週～平成31年第9週-



川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症性別・年齢階級別発生状況-平成27年第1週～平成31年第9週-



川崎市においては、平成27年第1週から平成31年第9週までに36件の報告があり、男性が69.4%を占め、70歳代以上が55.5%と半数以上を占めていました。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

- 【病原体】主にA群溶血性レンサ球菌
 - 【感染経路】上気道感染、創傷感染、手術部位感染など
 - 【好発年齢】30歳代以上
 - 【治療】抗菌薬治療、病変部の切除など
- ※早期発見、早期治療が重要です！

